

進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2010.4.28

No. 10

日本学生支援機構奨学金について その2



進路だよりの No.5 で日本学生支援機構の奨学金について紹介しましたが、今回は採用の基準と奨学金を受けた後返金はどの程度の負担になるかについて説明しましょう。

第一種は選考が厳しいので、第二種について説明しましょう。採用条件の一つとして家庭の給与所得が4人家族で1254万円以下となっています。自営業等の人は719万円以下です。親の年間収入がこの範囲に入る場合は可能性があります。

月5万円、4年間借りたとしても、返すときは月1万6769円ずつ15年間で返せばよいことになります。月8万円を4年間借りたとしても、月2万1531円を20年間で返すとすれば、これもそれほど負担にはならないと思います。ボーナス時に毎年まとめて払うことも可能です。

経済的理由で進学をあきらめている人はこれだけ借りられるだけでも大分楽になるでしょう。ただし、合格した時点で(学校により若干期間の違いはあるが合格発表後1~2週間以内程度)入学金等100万円近く払い込まなくてはなりません。そのお金はあらかじめ用意しておく必要があります。それも危うい場合は各種教育ローン等に頼らなくてはなりません。国の教育ローン教育一般貸付では、子供2人で、年収890万円以内であれば300万円以内の融資が受けられます。金利は2.65%、返済期間は15年以内となっています。

これらについて知りたい人は進路室に来るか(進路室もそれほど詳細は分かりませんが)、インターネット等で調べてみてください。いずれにせよ進学にはお金がかかります。その意味でも親とよく相談しておきましょう。

● 日本学生支援機構の奨学金		最初はこちらから検討	
予約採用・4年制大学の場合			
第一種奨学金(無利息)	学力基準	高校1年~申し込み時までの成績の平均値が3.5以上	第一種奨学金 月6万4000円を4年間借りた場合(私立大学・自宅外通学のケース) 6万4000円×48ヵ月 = 貸与総額 307万2000円 >> [返還例] 月1万4222円×216ヵ月(18年) 返還総額 307万2000円
	家計基準(4人家族の目安)	給与所得者は収入916万円以下、それ以外は所得430万円以下	
	貸与月額	国公立の自宅通学は3万円、4万5000円から選択 国公立の自宅外通学は3万円、5万1000円から選択 私立の自宅通学は3万円、5万4000円から選択 私立の自宅外通学は3万円、6万4000円から選択	
第二種奨学金(利息付)	学力基準	高校の成績が平均水準以上や、特定の分野で特に優れた資質能力があると認められるなど	第二種奨学金 月5万円を4年間借りた場合 5万円×48ヵ月 = 貸与総額 240万円 >> [返還例] 月1万6769円×180ヵ月(15年) 返還総額 301万8568円
	家計基準(4人家族の目安)	給与所得者は収入1254万円以下、それ以外は所得719万円以下	
	貸与月額	3万円、5万円、8万円、10万円、12万円から選択。 12万円を選択した場合、私大医学・歯学・薬学・獣医学課程は増額が可能	
			第二種奨学金 月8万円を4年間借りた場合 8万円×48ヵ月 = 貸与総額 384万円 >> [返還例] 月2万1531円×240ヵ月(20年) 返還総額 516万7586円